

上手に使おう 横浜の水

～健康と豊かな暮らしは 蛇口から～

令和4年度「水道に関するお客さま意識調査」の結果をお知らせします

水道局では、お客さまの現状や水道事業に関する評価・要望等を把握するため、4年に1度「水道に関するお客さま意識調査」を実施しています（前回調査は平成30年度）。このたび、令和4年度の調査結果がまとまりましたのでお知らせします。

調査結果のポイント

1	主に飲んでいる水の種類（家事用）	・「浄水器をとおさずに水道水をそのまま飲む」「浄水器をとおした水を飲む」を選択した水道水を飲んでいる方の割合は68.2%で、前回より1.0ポイント減少
2	水道水の安全性（家事用）	・「安全だと思う」を選択した方の割合は50.1%で、前回より15.4ポイント増加 ・「安全だと思う」「どちらかといえば安全だと思う」を選択した方の割合は94.4%で、平成14年度以降最高
3	節水意識（家事用・業務用）	・「まめに節水している」「ある程度節水しながら使っている」を選択した方の割合は、家事用が62.8%で前回より6.4ポイント減少、業務用が63.5%で前回より10.8ポイント増加
4	飲料水の備蓄（家事用・業務用）	・「1人あたり9リットル以上備蓄している」を選択した方の割合は、家事用が27.8%で前回より4.6ポイント増加、業務用が19.4%で前回より0.9ポイント増加
5	災害時給水所の認知度（家事用）	・「具体的な場所を知っている」を選択した方の割合は19.2%で、前回より2.3ポイント増加
6	水道事業についての満足度（家事用・業務用）	・「満足」「どちらかといえば満足」を選択した方の割合は、家事用が88.4%で前回より4.0ポイント減少、業務用が89.6%で前回より2.1ポイント増加

詳細な調査結果は、横浜市ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/sumai-kurashi/suido-gesui/suido/torikumi/yoriyoi/ishiki-cyosa.html>



調査の概要

区分※	家事用	業務用
調査地域	横浜市全域	
調査方法	調査票を郵送配布、郵送回答又はインターネット回答	
調査期間	令和4年11月11日（金）～11月25日（金）	
調査対象	市内に在住する満18歳以上の男女4,000人	市内の水道を利用する事業者1,000者
抽出方法	住民基本台帳からの無作為抽出	料金オンラインシステムからの無作為抽出
有効回答数	1,875/4,000（回収率46.9%）	376/1,000（回収率37.6%）

※ 家事用は、一般生活用として日常生活に使用するもの。業務用は、主に事業用に使用するもの。

お問合せ先		
水道局経営企画課長	大澤 吉幸	TEL 045-671-3127

令和4年度 調査結果の概要

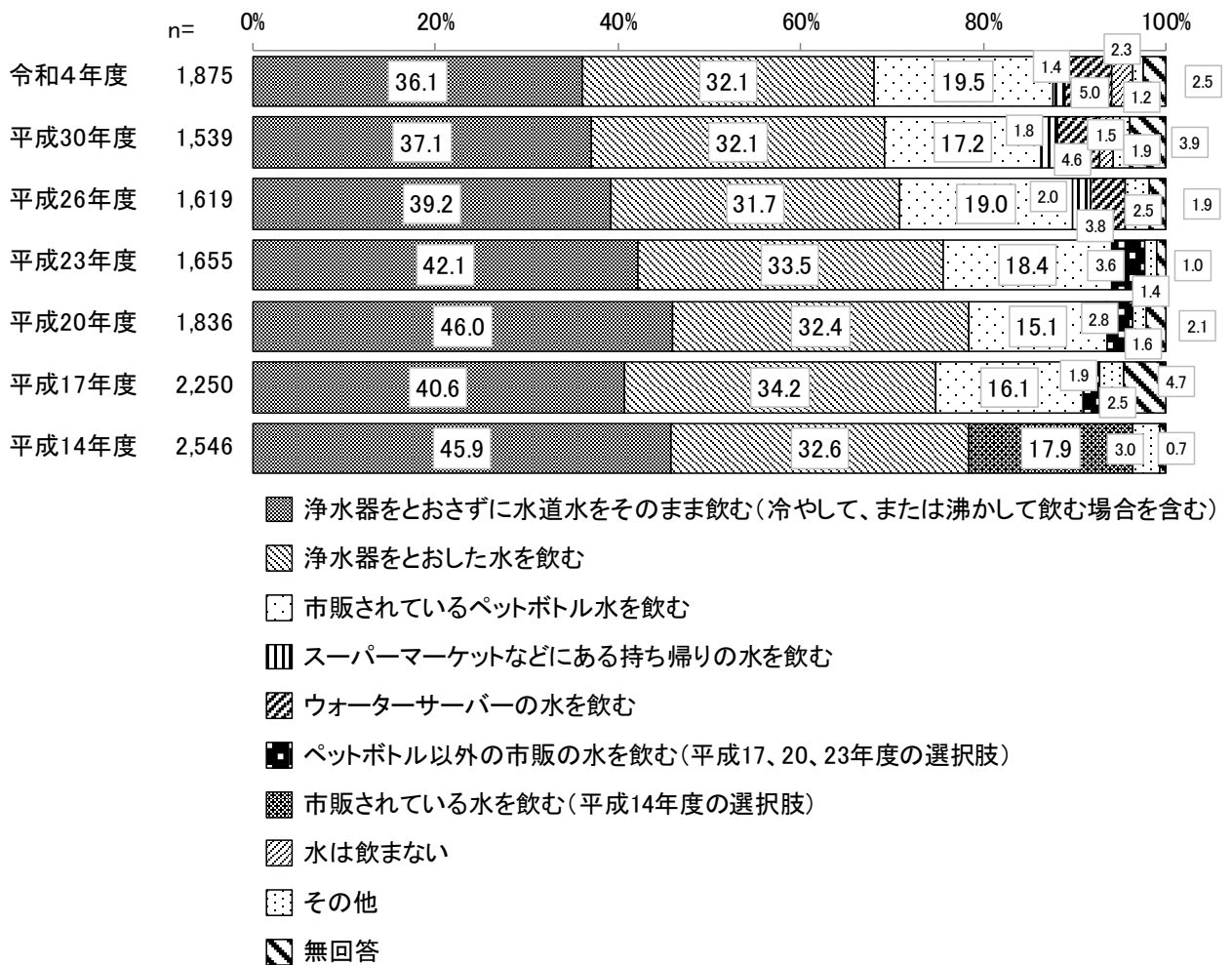
1 主に飲んでいる水の種類

家事用

ポイント：68.2%の方が、水道水を飲んでいる

「浄水器をとおさずに水道水をそのまま飲む」「浄水器をとおした水を飲む」を合わせた水道水を飲んでいる割合は、平成20年度が78.4%で最も高く、それ以降は減少傾向になっており、令和4年度は68.2%となっています。

一方、水道水以外の水を飲んでいる割合は、平成20年度以降概ね増加傾向になっています。

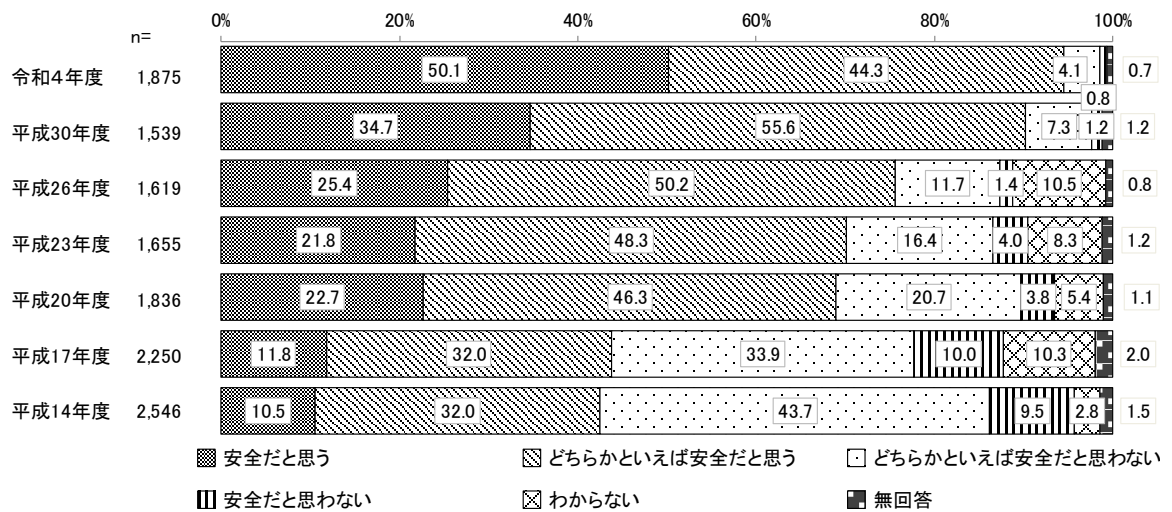


2 水道水の安全性

家事用

ポイント：94.4%の方が、水道水を安全と感じている

水道水の安全性について、令和4年度は「安全だと思う」割合が50.1%で、前回より15.4ポイント増加しました。また、「安全だと思う」「どちらかといえば安全だと思う」を合わせた水道水を安全と感じている割合は、年々増加しており、令和4年度は94.4%となっています。

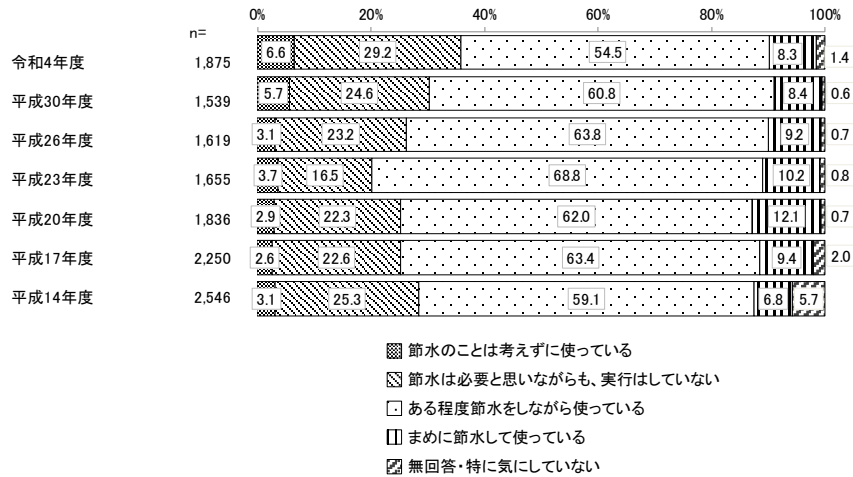


3 節水意識

家事用

ポイント：節水意識は、平成 23 年度以降徐々に減少

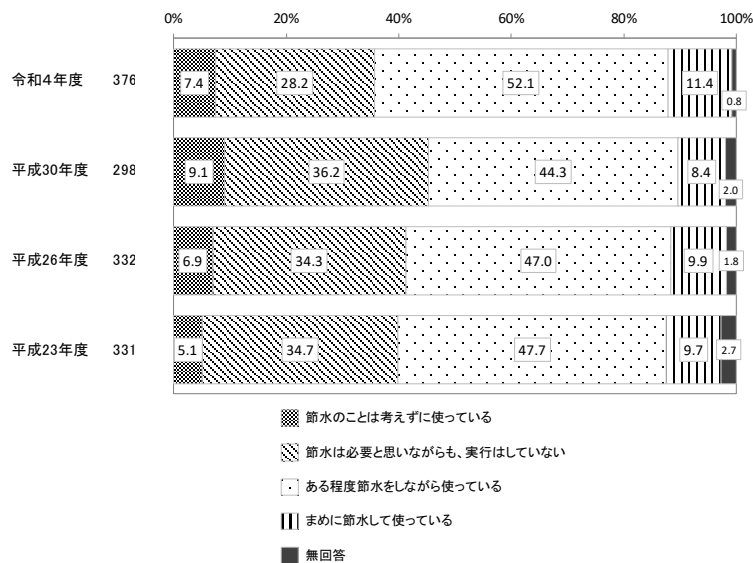
節水意識について、「まめに節水して使っている」「ある程度節水をしながら使っている」を合わせた節水に取り組んでいる割合は、平成 23 年度以降減少しており、令和 4 年度は 62.8% となっています。



業務用

ポイント：節水意識は、過去 4 回の調査で最も高い

節水意識について、「まめに節水して使っている」「ある程度節水をしながら使っている」を合わせた節水に取り組んでいる割合は、平成 23 年度から平成 30 年度までは減少傾向でしたが、令和 4 年度は 63.5% となっており、過去 4 回の調査で最も高くなっています。



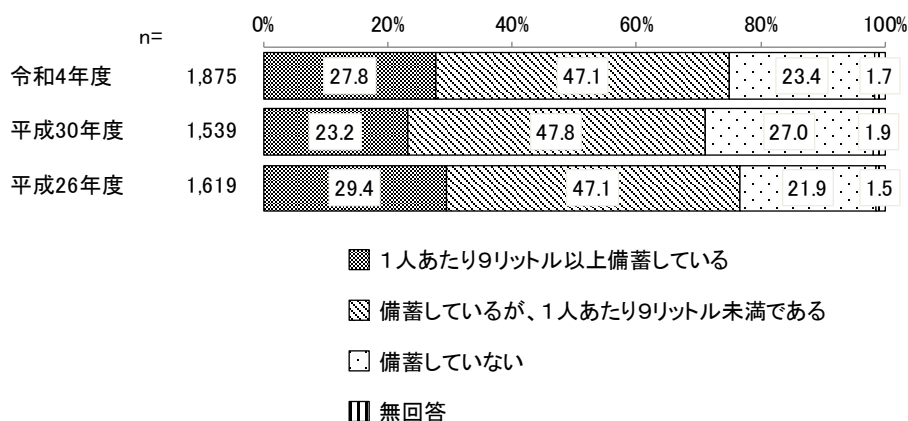
4 飲料水の備蓄量

家事用

ポイント：27.8%の方が、「9リットル以上備蓄している」と回答

災害に備えた飲料水の備蓄について、必要な目安の「1人あたり9リットル以上備蓄している」割合は、令和4年度が27.8%で、前回調査より4.6ポイント高くなっています。

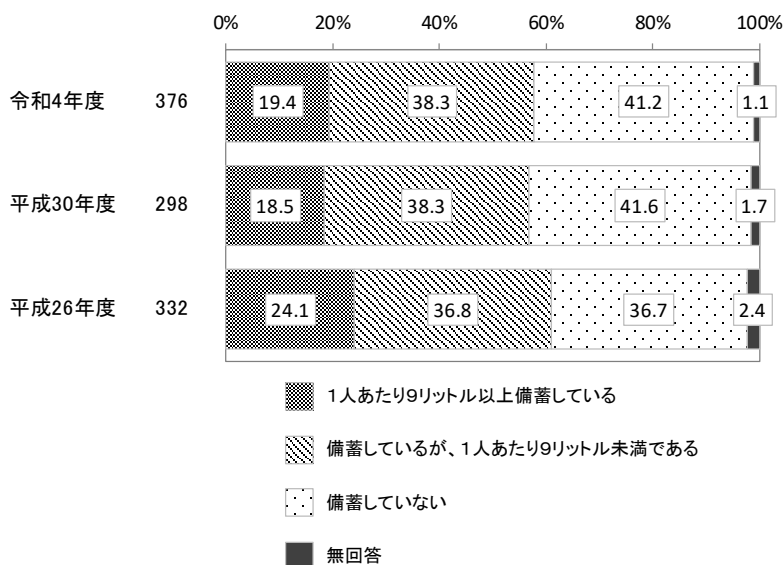
また、「備蓄しているが、1人あたり9リットル未満」を合わせた少なくとも備蓄をしている割合は、令和4年度が74.9%で、前回調査より3.9ポイント高くなっています。



業務用

ポイント：19.4%の方が、「9リットル以上備蓄している」と回答

災害に備えた飲料水の備蓄について、必要な目安の「1人あたり9リットル以上備蓄している」割合は、令和4年度が19.4%で、前回調査より0.9ポイント高くなっています。

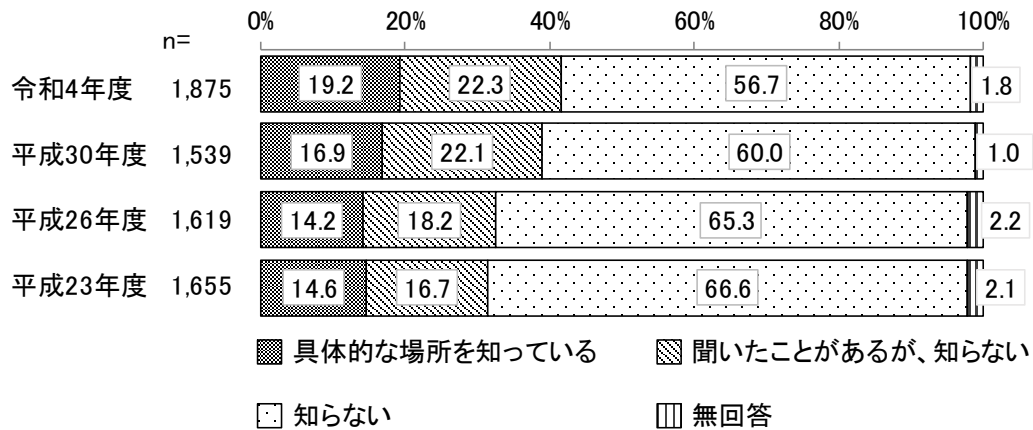


5 災害時給水所の認知度

家事用

ポイント：19.2%の方が、「具体的な場所を知っている」と回答

災害時給水所（※）の認知度について、「具体的な場所を知っている」割合は、平成26年度以降増加しており、令和4年度は19.2%となっています。



※ 災害時給水所とは、災害時に飲料水が得られるように横浜市水道局が整備している施設の総称です。「配水池」(22か所)に加え、市内の小・中学校等に設置した「災害用地下給水タンク」(134か所)、「緊急給水栓」(358か所)、「耐震給水栓」(30か所)などがあります。

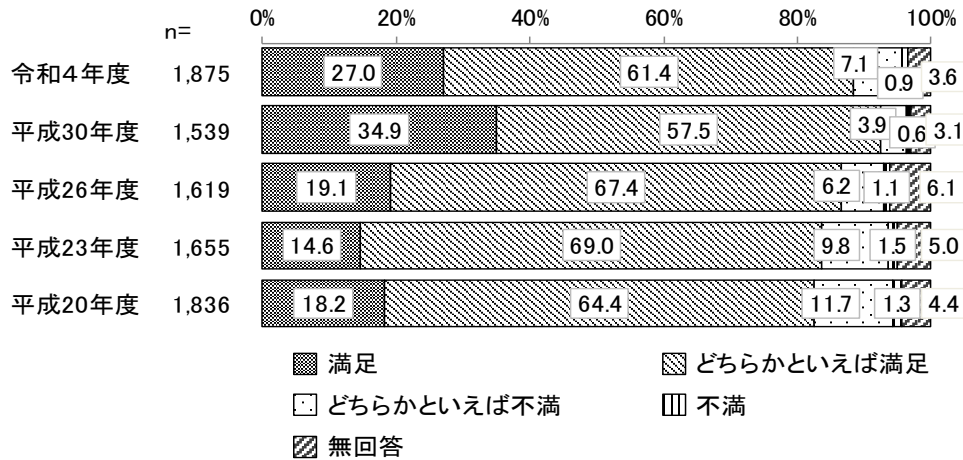
6 水道事業についての満足度

家事用

ポイント：88.4%の方が、「満足」「どちらかといえば満足」と回答

「満足」の割合は、令和4年度が27.0%となっており、平成30年度の34.9%から7.9ポイント減少しているものの、平成26年度以前より高くなっています。

また、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、令和4年度が88.4%となっており、平成30年度の92.4%から4.0ポイント減少しているものの、平成26年度以前より高くなっています。



業務用

ポイント：89.6%の方が、「満足」「どちらかといえば満足」と回答

「満足」の割合は、令和4年度が27.1%で、平成30年度の36.2%から9.1ポイント減少し、平成23年度以降最も低くなっています。

また、「満足」「どちらかといえば満足」を合わせた割合は、令和4年度が89.6%となっており、平成30年度の87.5%から2.1ポイント増加し、平成23年度以降は増加傾向になっています。

